

母の 682 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

ことばのなかのこどもたち⑩／今井和子 2

耳で聞く小さなおはなし⑤「ホンのちょっぴり」／村中李衣、石川えりこ 3

東日本大震災から10年

『はしれディーゼルかんしゃデーデ』が届けてくれたもの／鈴木史穂 4

新刊紹介／井嶋敦子、佐竹美保 6

まるまるめいた日記⑫／種村有希子 7

イラスト／垂石眞子



思い出のガンちゃん～三月十日のやくそく 早乙女勝元

コロナ禍が社会問題化する前には、都内の小・中学校などから、臨時の“平和授業”の講師依頼が数カ所からあった。単位は40分で、戦争体験の語り継ぎが目的である。いまや教師も保護者も体験なしの世代ばかりで、体験なしの世代にわかりやすく語るのはいかばかりの難問なのだが、私はいずれそうなるにとらんで、民立民営の東京大空襲・戦災資料センター（江東区北砂）で、体験映像をシリーズ化することにつとめてきた。

ところが映像には、思わぬアクシデントが付きまとう。上映中にプツンとなったら、その修復に貴重な時間を取られ、機械オンチの私にはどうすることもできない。私が1人で修復可能な映像を考えているうち、そうだ、紙芝居があるなと思いついた。

早速に紙芝居の原案をまとめて童心社に提出したところ、うまく採用されて『三月十日のやくそく』（伊藤秀男・絵）が完成した。絵を担当された伊藤さんも、わざわざ名古屋のお宅から東京の下町まで足を運んでくださり、取材されて、絵を描かれた。その絵の迫力たるや、思わずあっと声を上げたくなるほどで、これなら現代っ子も身を乗り出して見てくれるだろうと直感した。

内容は3月10日東京大空襲下のぼく（カツモト少年）の逃避行で、その間に出会ったガンちゃん（岩男君）との約束がテーマだ。必ず生きて会おうと約束したにもかかわらず、その約束は渦巻く猛火に飲みこまれ、ガンちゃん一家はこの世の人ではなくなってしまう。それを目にしたぼくは、どうすることもできなかった。

生き残った私は、ガンちゃんとの約束は果たせなかったが、せめてガンちゃんの登場する紙芝居を見てもらうことで「子どもたちの生命^{いのち}まで奪う戦争は、もう2度と絶対に起こさせない！」と、誓いを新たにしたい。

昭和20年3月10日の大空襲では、東京下町を中心に、10万人もの尊い生命が失われたのだ。そのなかにガンちゃん一家がいることを、いつまでも心にとどめていこうと思う。そして後の世代に戦争とはどういうものなのかを語り継いでいくことにする。

（さおとめ かつもと／作家）

ことばの

最終回

なかの

10

今井和子

こどもたち

いまい かずこ／子どもとこどもは研究会代表。二十三年間の保育士勤務ののち、立教女学院短期大学教授などを歴任。
主な著作に0歳児から5歳児―行動の意味とその対応（小学館）『子どもとこどもはの世界』（シネルヴァ書房）などがある。

●よつすけくん（四歳）は、ひな祭りの行事でおよつにひなあられが出た時、

「ようちゃん、これ、

おとうさんと、

おかあさんと、

おにいちゃんと、

あかちゃんに

もってつてやるの」

と嬉しそうに保育者に話しました。

うそは泥棒のはじまり？

想像力が活発になるこの時期の子どもは、よくうそをつくようになります。願望としてのイメージや夢で見たこと、現実が混同してしまうのです。他人を偽るうそとは違います。実は、ようちゃんの家族はお母さんと二人だけなのですが『お父さんやお兄ちゃん、赤ちゃんがいたらいいの……』という日頃の願望が想像上の家族にひなあられを持ち帰りたいということばになったのです。

そんな時「嘘ついたらいけません」ではなく、その子の本当の願いを汲み取って「みんな喜ぶでしょうね」と答えることで『わかってもらえてうれしい』という人への信頼を育んでいきます。ことばを聴くことは「その人の気持ちを汲み取ること」。哲学者・イリイチの言うように「聴くこととは、語ることよりもはるかに偉大な愛の証」なのでしょうね。

耳で聞く小さなおはなし⑤

「ホンのちょっぴり」

文・村中李衣 絵・石川えりこ

ひょとりふたり

窓に北風の当たる音がする寒い夜。五歳の私は、板の間で母さんが古いセーターをほぐく〈湯のし〉の手伝いをしていました。ほぐいた毛糸には、少しずつ湯気をあて、ちぢれを伸ばしていきます。私の役目は、ストーブの上のお鍋から出る湯気で伸びた毛糸を腕と腕の間に巻き付けていくこと。直角に曲げた両腕にこんながらないように、くるくるしていかなければなりません。カーテンの間から見える窓の外にはいつのまにか雪。お鍋のしゅんしゅんと歌うような声を聴きながら腕を動かし続けます。ようやく大きな大きな毛糸玉ができると母さんが「上手にできたね。あなたのおかげよ」と褒めてくれました。照れくさくて下を向いた拍子に、ふとスカートに目がとまりました。その日私がはいていたのは、兵隊さんたちと馬の絵が描いてある赤いプリーツスカート。プリーツスカートには、山・谷・山・谷と折り目がついています。褒められ浮かれていた私は、傍に置いてあった裁縫ばさみを握むと、荒野の戦いに挑むかのようにプリーツの山線谷線に沿ってスカートを切り始めました。



またおこられてん
小西貴士・作
石川えりこ・絵

心の中で口ずさんでいたのは「ひょとりふたりさん」に似ているよ」という『十人のインディアン』の歌でした。スカートがはらりはらりと短冊のようにばらけて、自分のひざっ小僧が見えました。それを見た母さんの悲鳴。「なんでこんなバカなことをしたの!」問い詰められ、うまく説明できずに「『十人のインディアン』になろうと思って」と答えました。その結果、たったひとりで雪ふる庭へ放り出されてしまいました。

『またおこられてん』のけんちゃんも、おかちゃんにおこられてばかりだったけど、しょんぼりお風呂から上がってきたとき「けんたろうにんじゃ、いっちょ、やるか〜!」って、暖簾マントを首に巻いたおかちゃんに声をかけてもらって。私も母さんと、湯気しゅんしゅんのまわりを「ひょとりふたり」って踊ってみたかったなあ。



イラスト／垂石眞子

●震災から十年

東日本大震災から、この三月で十年となります。地震、津波、原子力発電所の事故により、福島では現在も避難生活を送らざるを得ない人たちが三万六千人以上います。そのうち、福島県外に避難している人はおよそ二万九千人です（二〇二一年一月時点）。

地元への帰還に向けた環境整備が進み、避難指示が解除された地域もありますが、原発事故の影響で、今なお七つの市町村にまたがる帰還困難区域とされる場所があります。

●デーデと福島

震災直後、道路や鉄道も被災しました。車や暖房用の燃料を被災地に輸送できなくなり、石油やガソリンが極度に不足す

鈴木史穂

すずき しほ／福島県立図書館専門司書。
日本図書館協会認定司書。
東北大学大学院情報科学研究科
人間社会情報科学専攻博士課程修了。
2013年、世界図書館情報会議(WLIC)・
国際図書館連盟(IFLA)年次大会(シンガポール)で、
東日本大震災後の活動を伝えた
『The Librarians of Fukushima』を発表し、
ベストポスター賞を受賞。



すとうあさえ／文
鈴木まもる／絵
本体価格 1400 円＋税

る状況に陥りました。そこで福島に燃料を届けるために、不通となった東北本線にかわって、磐越西線という、通常は貨物列車が走行していない路線に、各地から集められたディーゼル機関車を走らせることになりました。福島の人たちを助けるための大プロジェクトでした。その時に走ったディーゼル機関車を主人公にしたお話が、『はしれ ディーゼルきかんしゃデーデ』です。

当時は、原発事故による放射能汚染も心配されていました。被災地の中でも、福島は取り残されてしまったような雰囲気があったのです。その福島を、あらゆる手段を使って助けようとしてくれた人たちがいたことを、『デーデ』は伝えてくれます。

これまで、地震、津波、原発事故、放射能汚染など、震災を描く児童書が数多く出版されてきました。その中で、『デーデ』は、つらい経験の一方で、うれしかったことを思い出すことができる大切な絵本です。この絵本の中で、デーデの思いがこつ綴られています。

なつかしいせいろ……。

でも、いえはくずれてるし

かわもにこっている。

たいへんなことがおきたんだ。

はしらなくちゃ。はしらなくちゃ。

力強く温かい絵と言葉に、全力で走るデーデの気持ちが切ないほど伝わってきます。私は『デーデ』を何度も読み、その度に勇気づけられてきました。

●デーデに来てほしい！

震災後、福島の人たちを助けてくれたデーデに、もう一度福島へ来てほしいと強く思い、『デーデ』の原画展と、作者による講演会の開催をお願いしました。

この絵本を知っている人にも、知らない人にも、震災を経験した人にも、経験していない子どもたちにも、『デーデ』は勇気と希望を届けてくれると思ったからです。『デーデ』の原画展は、JBBY（日本国際児童図書評議会）の希望プロジェクト（*）の力を借り、実現しました。

●福島県立図書館で原画展を開催

作者のお二人、児童図書館研究会福島支部、小野町ふるさと文化の館、福島県立美術館など、たくさんの方々を支えられ、原画展は二〇二〇年二月二十日から四月一日まで開催されました。東日本大震災の起こった三月に合わせ、春休み中の子どもたちに親に来てほしいと考えました。会場では原画をお話の順に並べ、文章を添えて展示し、原画と絵本の世界を共に楽しんでもらえるように工夫しました。

（*）困難を抱えた子どもたちが希望を持って生きられる未来のために、「子どもの本」を通じた支援をするプロジェクト。

お話を読みながら、ゆつくりと原画を見る人がたくさんいました。子どもに小さな声で読んでいる親子もいました。目に涙を浮かべ、原画に見入る人もいました。『デーデ』の絵本をはじめて知ったという人は、「感動した」と感想を聞かせてくれました。

ぼくは、この絵がとても気に入っています。デーデ、ゴク、それからイトが力を合わせてのぼりきったことから、みんなできょう力することが大切だということ学びました。



JR貨物（日本貨物鉄道株式会社）の協力で、デーデのモデルとなったDD51-852号機の銘板（プレート）、写真パネル、記録資料も展示することができました。実際のデーデはすでに引退し、二〇一六年に解体されています。あの時助けに来てくれたデーデがもういないことを嘆くと、JR貨物の方が「今度何か

東日本大震災から10年 『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』が届けてくれたもの

悲しい現実から、人間の努力と強い意志によって救われた人々がどれほどいたか。知らなかった人々の想いを知ることができました。子どもたちにも語り継いでいきたいと思います。

息子が電車が大好きで、ずっと大切に読んでいます。東日本大震災を知らない息子ですが、地震がおきて、デーデたちが助けてくれたことは理解しているようです。（中略）私自身も、この絵本がなければ知らないままでした。ありがとうございました！

震災後に磐梯町^{ばんだいまち}付近をたぐさんの石油タンクを引いて郡山へ向かう列車を見て安心したことを思い出しました。原画を見て、文を読んで、涙が出そうになりました。あたたかい原画です。いい話です。ありがとうございました。

原画展来場者の声



起こったら、新しいのが助けに行きますよ」と励ましてくれました。デーデを走らせてくれた人たちの思いを知り、感激しました。

大好評の原画展でしたが、新型コロナウイルス感染症が広まり始めた時期と重なり、予定していた講演会は、残念ながら延期となりました。今後、感染状況を見極め、あらためて講演会を実施する予定です。

●デーデが届けてくれたもの

『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』は、デーデが届けてくれたものが、燃料だけではなくことを教えてくれます。車体は失われても、絵本を通して、デーデは今も勇気と希望を届けてくれます。福島に生まれ育った者として、図書館の司書として、これからもこの絵本を子どもたちに手渡し、伝えていきたいと思っています。

新型コロナウイルス感染症がどうなるか？ 100%の予測は専門家でも不可能です。けれど、心がまえとしてだれにでもできることがあります。それは、パンデミック・感染症の歴史を学ぶこと。「パンデミックを生きぬくための」と題されたこの本は、感染症をその歴史からイラストと文章で教えてくれます。ああ、新型コロナウイルス感染症も歴史の中のパンデミックのひとつなんだ、コロナ禍もきっと克服できると、わかってもらえるはず。

昨年末、出版前に協力のご依頼をいただきました。医師・後藤敦子として気づいた部分をご指摘しましたが、中身の濃さにおどろきました。今も世界の一部でペストが年間500例も出て2割が亡くなり、日本脳炎で亡くなる人が年間15,000人もいるなんて。麻疹に感染するといったん獲得した免疫が無効化することや、卵かけご飯を安心して食べられるのは日本だけだとか。そうなのか！ とおどろく知識がためこまれています。

長年小児科医をやってきたものはみな、ワクチンのありがたみを実感しています。ヒブ・肺炎球菌ワクチンのおかげで細菌性髄膜炎が、ロタワクチンで胃腸炎が確実に減りました。パンデミックを克服してきたのは人々の英知です。この本は「子どものための」となっていますが、全年齢の方に役立つ知識満載です。英知を蓄えてコロナ禍を乗り切りましょう！

(いじま あつこ／小児科医・童話作家)



子どものための
感染症予防 BOOK

夏緑／著
ミノオカ・リョウスケ／絵
本体価格 3800円＋税

パンデミックの歴史を学び、 コロナ禍を乗り切ろう

井嶋
敦子

今だからこそ 『新シェーラ姫の冒険』



〔愛蔵版〕
新シェーラ姫の冒険 (上)
〔愛蔵版〕
新シェーラ姫の冒険 (下)

村山早紀／著
佐竹美保／絵
本体価格 各1900円＋税

佐竹
美保

表紙絵を描くため再読しました。

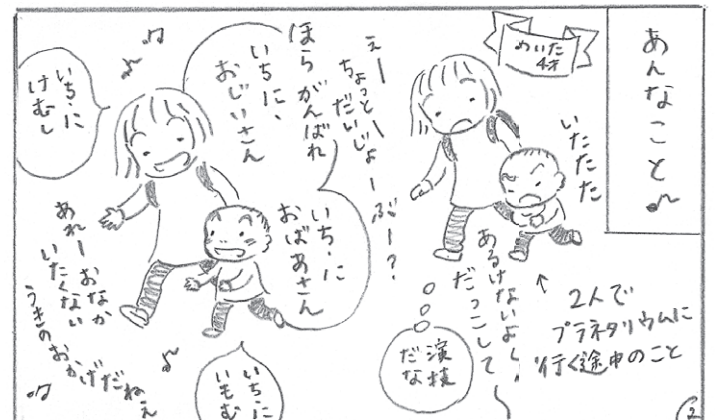
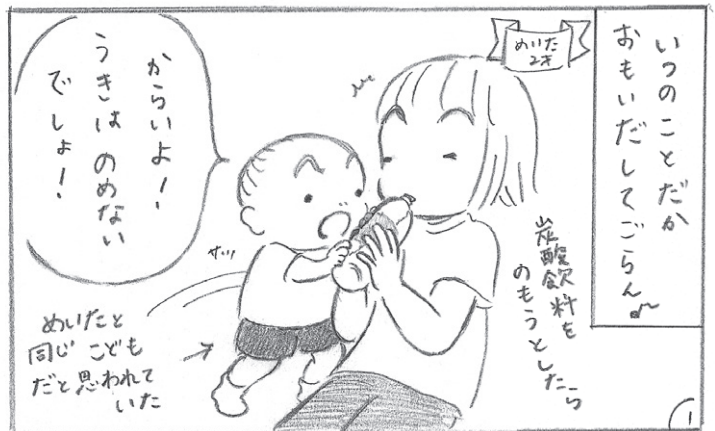
一冒険という言葉が、こんなにも新鮮で尊く感じられたのは初めてです。新しい災厄から物語が始まる、「今だからこそ」の新シェーラ姫の冒険です。滅亡の危機にある世界を救うため、先の見えない旅をする子ども達は、仲間と出会い、それぞれの心の底にあるものを少しずつ分かち合っていきます。危険が続く旅の様子やのり越えていく場面を読むたびに、「すごいぞ、子どもたち!!」というエールが頭に響きました。

『愛蔵版 シェーラ姫の冒険』では、久しぶりのシェーラが孫のように思えて、表紙絵のなかで小さく遠慮がちにおさめてしまいましたが、今回は違います。老骨にむちうって、できるかぎり過去の感覚をひきずり出して子どもたちを出さなくては、と思いました。同じ顔を何度も描けない私ですが、心を物語に沈めて思いだしながら、表情を描いていきました。彼らの「やるしかないんだから!!」という気持ちとかわいらしさを加えて。表紙カバーのそでには、頼もしい大人達を添えることで、文庫シリーズではできなかったカバー絵になりました。みなそれぞれの冒険を生き延びて、一サタケの冒険一があり、一読者のみなさんの冒険一もあります。今、なかなか思い切った行動ができない世ですが、この物語がみなさんそれぞれの冒険のひとつに加われば、と思います。

(さたけ みほ／画家)

まるまるめい日記

種村 有希子



めいたとの日々はっぐ

よくめいたの話をしてきました。「なんか漫画みたいですね」とか「完全に同等の関係なんだね」と言われることが多く、いつか何かの形にしたいなと思っていたので、この連載の機会をいただけてとても嬉しかったです。いつかめいたが大人になったときに笑いながら読み返してくれたらいいと思います。

最後にめいたへ……いつも楽しい時間をありがとう。これからも一緒に過ごして、いろんなめいたを見つけていきたいです。そして、一年間読んでいただいた読者の皆様、ありがとうございました。

種村有希子

ちやうど

3月の新刊図書！

ももんちゃん あそぼう

ももんちゃん どこへいくのかな？

とよたかずひこ／さく・え

本体価格 800円＋税



ともだちを乗せ、どろんこじどうしゃやヘリコプターを運転するももんちゃん。みんなをつれていったのは、とってもすてきなところ！

どーんと やさい

ぷっくり えんどうまめ

いわさゆうこ／さく

本体価格 1100円＋税



ぴかぴかのさやえんどう、ぷっくりころころグリーンピース。いろんなえんどうまめの魅力が満載！えだまめや、そらまめも紹介。

クローバーと魔法動物

③ライバルは 夏の終わりに

ケイリー・ジョージ／作

久保陽子／訳

スカイエマ／絵

本体価格 1200円＋税



魔法動物紹介所にやってきたあらたなスタッフ、オリバー。でもクローバーは仲よくできません。そのうえ魔法動物に異変が……!?

はんぴらり！ [増補新版]

①妖怪だらけの夏休み

②秋の宴はおおさわぎ

廣嶋玲子／作

九猫あざみ／絵

本体価格 各900円＋税



恥ずかしがりやの男の子・鈴音丸は、なんと、半人前の神さま「はんぴらり」?? 武と鈴音丸が大活躍する物語。

SDGsでかんがえよう 地球のごみ問題

見すごせない! 海洋プラスチック問題

保坂直紀／指導

どうしたらへらせる? 食品ロス問題

小林富雄／指導

まったなし! 世界にあふれるごみ問題

織朱實／指導

井田仁康／総合監修

グループ・コロンブス／編

本体価格 各3000円＋税



SDGs（持続可能な開発目標）の観点から、ごみ問題を読み解きます。海洋プラスチック、食品ロス、古着、スマホやパソコンなどの電子ごみなど、私たちの出すごみが、世界の誰かを苦しめているかもしれません。

2021年3月15日発行（毎月刊）

母のひろば 第682号

定価50円（年600円／送料とも）

発行所：童心の会

〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6

株式会社童心社内

電話：03（5976）4181

03（5976）4402（編集）

編集発行人：大熊悟

童心社のホームページ：

<https://www.doshinsha.co.jp/>

デザイン：谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌（無料）と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただきますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円（送料とも）。



あとがき

●東京大空襲、東日本大震災……凄惨な出来事でも実体験がない人の中では風化していきがちです。10万人、2万人の方が亡くなったと聞いても、ただの数字としか思えないかもしれません。しかしそれが血の通った人物の物語として語られると、我が事として胸に焼きつきます。本・紙芝居の力を信じ、大切なことを子どもたちに伝えていかねばと思います。◎

●今月号で2つの連載が終わります。今井和子さんが耳を傾けて掬い取ってきた言葉の数々。種村有希さんとの不思議な関係性から発せられる甥っ子・めいたくんの名言。いずれも時にユーモラスに、時に示唆に富む内容で、本誌に彩りを添えて下していました。子どもたちの言葉は、いつも自由で伸びやかです。本当にありがとうございました。①